

いふ言ふ住居中 粹客の通里かまを向ふ宮内通年とつふ
科理亭へついでにけり深ふあつ何川様とつふ今戸の御徳居

且母愉快を酒ゆりも

此等の暇をせん

とふ物をせん

いと愛敬を

慕ふて花をあなほ先の樹より

手活して床の詠とせんよと恋のふらや

一寸むりの珊瑚珠と金無垢の金物をおせん

やう心の艾を見せらる子に上凡りのあつ女の心底

風の抑えをひねりもせはばとへ花族さるのゆゑとてもソヤの事か免と

品よく其場を断りて如せし跡より彼二品をな忘と物かかり

としてまふ程よく云経が加へたやれが街へ入居へフソウカとて

受取りしる思げと花族さるへはアアアアと

讀賣百九号三款英せり

大阪新聞錦画

第八号



新錦画

新錦画

新錦画